

第17回

写真

～とらえる きり取る そうぞうする～

美術教育監修・執筆

上野行一

デジタルカメラやスマートフォンの普及で、写真は身近なメディアになった。いつでもどこでも、手軽に写真を撮ることができる。しかし写真は奥が深い。プロの写真家はどんな工夫をしているのだろうか。そんな写真の魅力を今回はとらえて切り取る、演出される写真、そうぞうする写真というポイントから学ぶ。

学習前
チェック!

納得のいく写真を撮るにはどうすればよいだろう。最近撮った写真、自分が好きな写真、どうやって撮ったのか気になる写真などをチェックしておこう。

とらえて切り取る

写真撮影はレンズの選択と撮影位置を決めることから始まる。次に露出（絞りとシャッター速度の組み合わせ）とピントを合わせ、フレーミングを決め、シャッターチャンスを待つ。

番組で紹介するカルティエ・ブレッソンは、レンズも露出もピント位置もほぼ固定して撮影に臨んでいる。決定的瞬間をとらえて切り取るには、フレーミングとシャッターチャンスが大切、ということだ。瞬間をとらえるには時間が必要なのである。

演出される写真

瞬間をとらえるのではなく、被写体を演出したり、撮影の技法を駆使して演出する写真の方法もある。スナップ写真が決定的瞬間をとらえるための待機に時間をかける方法だとすれば、演出された写真は計画された効果をあげるための準備に時間をかける方法といえる。上記では、「とらえて切り取る」ことが写真の基本であると述べたが、その際にも自分なりに対象のとらえ方を考えたり、撮影の技法で工夫したりするはずであり、その意味では写真は真（現実）そのものではなく、演出されたイメージということができる。

そうぞうする写真

そうぞうする写真、つまり見る人に何かを想像させるような写真は、どうすれば創造できるだろうか。簡単なことではないが、番組で紹介したように対象の形を説明するのではなく、対象を色の構成としてとらえて撮影するというのも一つの方法だ。そのことによって日常とは違う現実の見方が生まれ、そうやって撮られた写真は見る人の想像をかき立てることにもなる。光の反射や影に注目してみたり、表面の感触に注目してみたりして自分なりのイメージで撮ってみよう。